

会 議 録

会議の名称	第9回白岡市立学校適正規模・適正配置審議会
開 催 日	令和8年6月30日（火）
開 催 時 間	午後6時30分 から 午後8時 まで
開 催 場 所	市役所大山庁舎 1階 大会議室
出席者（出席委員）の 氏名・出席者数	明野 真久、中口 智弘、細野 勇人、中村 則裕、辻 文明 増田 陽一、水野 香奈、矢部 れい美、藤井 亮輔、加藤 政典 濱本 一、安原 輝彦 出席者：12名
欠席者（欠席委員）の 氏名・欠席者数	神田 小百合、小林 大輔、松崎 慶喜 欠席者：3名
説明員の職・氏名	魅力ある学校づくり推進室主査 相子 純一
事務局職員の職・氏 名	教育長 横松 伸二 教育部長 長谷川 亘 参事兼教育指導課長 増村 歩 教育総務課長 高澤 憲司 魅力ある学校づくり推進室長 齊藤 健 魅力ある学校づくり推進室主査 相子 純一 魅力ある学校づくり推進室主任 内田 直子
その他会議出席者の 職・氏名	教育総務課主幹 神田 晶子 教育総務課主任 松本 崇希 ファシリティマネジメント推進課長 佐藤 恒喜 ファシリティマネジメント推進課課長補佐 濱田 貴央 ファシリティマネジメント推進課主査 空谷 大地 株式会社ファインコラボレート研究所 土肥 千絵
傍 聴 者 数	15人
会 議 次 第	別添のとおり
配布資料等	・白岡市立学校の適正規模・適正配置等について（答申）（案）（補足事項あり） ・白岡市立学校の適正規模・適正配置等について（答申）（案） ・魅力ある学校づくり説明会（チラシ）

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	1 開 会
教育長	2 あいさつ
事務局	3 議 題 それでは議題に入ります。ここからの進行につきましては、濱本会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。
濱本会長	会議の開始にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。
濱本会長	濱本会長あいさつ
濱本会長	それでは、暫時の間、議長の職を務めさせていただきます。委員の皆様には、限られた時間の中で会議を効果的に進めるため、有意義な議論へのご協力をお願いいたします。 また、本日ご出席いただいている株式会社ファインコラボレート研究所の方からも、必要に応じてご意見を伺うことがありますので、あらかじめご承知おきください。 なお、傍聴の方の入室を許可しておりますので、ご了承ください。
濱本会長	それでは、議題に入りたいと思います。 「白岡市立学校の適正規模・適正配置等に係る答申（案）について」を議題といたします。事務局からご説明をお願いします。
事務局	「白岡市立学校の適正規模・適正配置等に係る答申（案）について」説明
濱本会長	今ご説明にあったように、答申書（案）の各項目について、大きい柱の1つ目が白岡市全体の学校の適正規模・適正配置に関わること、2つ目が、今まで委員の皆様からいただいたご意見等、これまでに議論した将来ビジョン、そう

	いったものを踏まえて適正規模に向かって配慮していただきたい項目となりまして、そういった形の答申書（案）が示されたわけです。 それではこの答申書（案）につきまして、最終的な確認の場になります。事務局の説明に対しまして、ご意見やご質問がございましたらご発言をいただきたいのですが、いかがでしょうか。
C委員	確認になります。2の（2）、小中一貫教育の推進についての最後の部分です。「小中一貫教育の推進に取り組むことをお願いしたい」というのは、審議会として小中一貫教育の推進をお願いしたいというところまで考えた言い方であると認識しています。ですが、小中一貫教育については、前回の審議会でもお話したとおり、導入にあたっては色々と課題もあると感じています。そこで、小中一貫教育の推進について、委員の中で最終確認したいと思いました。
濱本会長	どうもありがとうございます。 小中一貫教育について、委員同士の合意形成はどうなっているかというご意見だと思います。小中一貫教育の良さは審議会の中で確認したと思います。 ただ、一方でC委員のおっしゃるように課題は当然あります。その課題につきましては、事務局がまとめた後半の部分の配慮事項の中で補完してもらう形で了解を得ていると思っていますが皆様いかがでしょうか。 小中一貫教育の課題については、解決に近づけるよう配慮をしながら取り組んでほしい、この審議会での委員の皆様の共通理解と思っています。
A委員	今C委員がおっしゃった内容に対しまして、この答申書（案）の文章の中に、「問題点をしっかり解決するように動く」などの一文を入れておくといいのではないのでしょうか。問題を列挙するのは細かすぎると思います。これだけ見ると、確かに小中一貫教育の推進が全ての課題を簡単に解決するような文章にも読めてしまうので、「課題を克服していく」など、何か入れた方がよいと思いました。
濱本会長	皆様、今のA委員のご意見はどうですか。そういう課題を明記しておいて、

	それに対して配慮しながら進めてもらうこととする。小中一貫教育の課題を全て列挙するのは大変なので、その概略的なニュアンスだけを残していく。例えば「よってこれらの教育課題の解決に向けて、課題を克服しつつ小中一貫教育の推進に取り組んでいただきたい」との表現になると思うのですが、それよろしいですか。
委員一同	(異議なし)
濱本会長	では、その形で進めていきたいと思います。どうもありがとうございます。
D委員	1で表現している「小学校3校・中学校3校を軸として」については、20年後の状況変化を見据えた柔軟な目安になっており、将来の不確実性に対応できる余地を残した適切な表現であると思います。 2についてですが、「審議の経緯及び配慮事項」とありますが、どこまでが審議の経緯を示していて、どこからが配慮事項なのかが分かりにくいと思いました。(3)の「審議会からの意見について」を配慮事項にすれば、もう少しスッキリすると思います。
濱本会長	どうもありがとうございます。 そうすると、ご意見は、例えば(3)の「審議会からの意見について」を配慮事項とすれば、(2)までは「審議の経緯」ということになる認識でよろしいでしょうか。
D委員	構成の流れを考えるとそうなるのではないかと思います。2の中では、取り組むことをお願いしたいと書いてあります。そうすると配慮事項になるのではないかと思います。
濱本会長	そうしますと(3)が「審議会からの配慮事項」という表現になりますか。
D委員	(3)は配慮事項の内容であると私は考えています。

濱本会長	D委員の意見に対して、(3)を審議会からの配慮事項とすると、(2)をどのような位置づけにするかです。この審議会で委員の皆様からいろいろな意見をいただいた中で、やはり小中一貫教育は大変よいとのご意見がいろいろ出ていました。一方で、色々な課題もあることも踏まえ、この(2)が特出しになっていると思います。そういうところを十分生かしてほしいということが、D委員がおっしゃっている経緯でもあり、またお願いでもあります。 そこをすみ分けるのが難しければ、このままとし、(2)は経緯でもあり、我々の願いも含まれる、(3)は審議会からの配慮事項についてとする、そのような形が分かりやすいと思いますが、皆様どうでしょうか。
L委員	この資料の案を作成した事務局に、構成や内容について確認してはいかがでしょうか。どこからどこまでが審議の経緯で、どこからが配慮事項で(2)は何に該当するのか。詳細について、ご説明をお願いしたいのですが。
濱本会長	それでは説明を事務局お願いできますか。
事務局	2の「審議の経緯及び配慮事項」は、全体が審議の経緯と配慮事項と考え、内容をまとめました。(1)、(2)ともに、まず経緯を記載し、その後、適正規模・適正配置の着実な推進をお願いしたいといった配慮を続けて記載しています。どこからが配慮事項というよりは、どちらも含めてという意図で案を作成しました。
L委員	今の説明をお聞きして、1つ疑問があります。大きな括りとして確かに審議及び配慮事項ではあるかもしれないですが、その後の「審議会からの意見について」につながるのかと思いました。審議会からの意見は全体につながる話になると思いますので、そこは外に出して別枠として捉えてもよいのではと思います。それ以外については、内容は問題ないと思います。 小中一貫教育については、私自身も6年間、中高が一緒の環境にいた経験があり、その中で感じたデメリットも多くありました。

	この資料だけを見ると、メリットが中心に整理されている印象を受けますので、導入にあたっては、良い面だけでなく課題も含めて、慎重に議論していく必要があると思います。
濱本会長	L委員は（３）の「審議会からの意見について」は、別に章立てしてもいいとおっしゃり、D委員も同じような意見です。皆様はどうですか。
G委員	私は今まで出された意見が的確にまとめられていて、分かりやすいと感じています。確かに２の（１）と（２）で、最初の部分に経緯が書かれていて、その後に具体的な配慮事項があります。（２）の「小中一貫教育の推進について」も、なぜこのような構成になっているのか、今書かれている内容であったり、事務局の説明を聞いて、私は理解できました。そのため、今の構成についてそれほど違和感はなかったです。 しかし、（３）だけ経緯が入っていないことについては、入れなくてよいのかと思っています。
K委員	私も読んでいて違和感はありませんでした。 １つずつ経緯と配慮事項を出しているので、書き方だけの問題で内容についての問題は全くないと思います。
濱本会長	ありがとうございます。 そうしますと、D委員やL委員が指摘する（３）について、審議会からの配慮事項として、これを別に出したとしても問題はないとのことですが、これについては考えさせてください。委員の意見としてさほど問題はないという意見はありますが、読み手としてはそれを分けたほうが読みやすいのではという意見でしたので、この件については、一旦保留とさせていただきます。 他にご意見ありますか。
D委員	（３）の「審議会からの意見について」の中で、アの（カ）に「見直しの検討をお願いしたい」とあります。その検討をお願いする時、あいまいにただ検

	討をお願いするだけではなくて、定期的というか、５年ごと、７年ごと、１０年ごとなど、はっきりしておいた方がいいと思いました。つくば市も数年ごとに検討しているような話を伺ったので、白岡市でも定期的に検討するということを、この審議会で出した方がいいのではと思いました。
濱本会長	見直しの期間を具体的に示した方がよいのではないかというご意見ですが、皆様いかがでしょうか。
Ｌ委員	中長期的な視点を持ちつつ計画を見直していくという件ですが、現時点で何か決まっているわけでもなく、２０年にわたるビッグプロジェクトになると思います。 そのため、今時点で何年後に見直しをかけるとの具体的なことは立てられないと思います。ただ私も追加してほしいと思ったことがあります。内容については基本的に問題ないと思いますが、今後具体的に考えていく上で、今の状況ではなく、２０年後にどうするべきかという最適なビジョンを最初に考えてから進めていただきたいということです。この取組は２０年後のゴールがこうあるべきだというそのための話なので、２０年後を見据えた上でまず考えていく必要があると思います。 そして、取組を進めていく中で、調整が必要なことや財政面の問題などで計画を変更することはあり得ると思います。この時には変更されたことについて、関係者や場合によっては市民の方も含めて情報を周知できるような状態にしていきたいと思いました。なぜなら、この作業を取り組む上で最初から最後まで２０年間携わる人がいるかどうか怪しいと感じているからです。 これまでの検討経過やその後の状況変化などの記録をしっかりと残しておかなければ、今後の確実な計画の推進が難しくなるのではないかと懸念しています。どちらかといえば今後に向けての要望になりますが、こうした経緯や変化の記録・蓄積についても十分に考慮していただければと思います。
濱本会長	どうもありがとうございました。 Ｌ委員がおっしゃったように、一番は審議した将来ビジョンをぶれないよう

	にさせていただきたいということです。将来ビジョンに基づきながら学校再編の形を描いていただき、そのような考えを常に持って進めていただく必要があると思います。事務局からは何かありますか。
事務局	20年後のぶれない姿を設定することは重要だと思っています。この場ですぐ具体的なことは申し上げられないですが、今後検討していきたいと思います。
濱本会長	それでは、「中長期的な視点を持ちつつ、社会情勢や人口動向の変化に合わせ、計画内容の見直しの検討をお願いしたい。」については、「計画内容を見直す」のではなくて、「計画的に内容を見直す」にするのはどうでしょうか。それならば、各委員のお気持ちが入るのではないかと思います、皆様どうですか。
A委員	20年後がどうなっているか分からない中で、これが全てのゴールになるには限らないわけです。もしかしたら子どもが爆発的に増えるかもしれない。そういうときに見直すのだと思います。 ですので、審議会としては、市に対して「このように見直してください」という要望を伝えるだけですので、市の方針として、例えば3年ごとに見直すといったことを決めていただきたいと思います。つまり審議会としては、「定期的に」という形で要望し、それに対して、市では何年ごとに見直しを実施するという形になればよろしいのではないのでしょうか。 将来的に、地区ごとでもっと人口が偏るかもしれません。その中で小中を3校ずつにすることが理想的なのかは現時点では分かりません。ぶれてはいけないと思いますが、計画を見直すことは重要だと思います。具体的な年数を書くかは検討が必要だと思います。これは20年後の答えではなく今の答えで、これをロードマップにしていくことがよいと思っています。逆に言うと、我々が教育委員会に宿題を出すような形になるという気がします。
濱本会長	どうもありがとうございます。

	これまでのご意見を踏まえますと、「定期的」や「適宜」といった表現がよろしいのではないのでしょうか。具体的な見直しの年数は、教育委員会でしっかりと検討してもらい、審議会としてはある期間としての数字ではなく、「定期的」、「適宜」などの文言を入れて教育委員会に考えていただく形がよろしいかと思います。皆様いかがでしょうか。他にご意見はありますか。
E委員	私はここに書かれている内容で、前段で目指すところ、そしてそこには書けない配慮について、後段で書きあげるという流れはあっていると思いました。 例えば、今から20年前の不登校の状況は、学校に来ないことがあり得ないという状況でしたが、今は不登校の概念がすごく変わってきています。これだけ変化が激しい時代ですので、A委員がおっしゃるとおり何が正解というのは難しいと思います。先ほどの議論のとおり、定期的に見直しを図って、こういった取組がこの話のためになるのかという、視点だけしっかりと見据えながら進めていけばよいと思います。
G委員	私も「段階的に」や「定期的に」という表現がしっくりこないという印象を持っていましたが、皆様の意見を聞いて、改めてあくまでもこの審議会は、配慮事項などを教育委員会に示すものだと思います。そして、それを受けて教育委員会が今後どのような対応をとるのか、説明会などを通じて示していくのだらうということで、私も理解しました。 実は、先週、菁莪中の意見交換会を学校運営協議会の方が主催で開催してくださいました。60人ぐらいの方が参加して、その中で一番話題だったのは学校再編は「いつからなんだ」と、やはり「いつ」を聞きたくて参加をされている方が多かったです。 3年後だとしたら、今の6年生は入学させない、途中で転校させるならば何年後か早く出してほしい、そこを聞かせてほしいというのがありました。意見交換会後には、多くの保護者の方が「いつから実施されるのか教えてほしい」と話を聞きに来られます。やはり「いつ」というのはポイントになりますが、この答申ではその思いを教育委員会に伝え、明確にしなければいけないということをご提案するという捉え方でいいのだと思いました。

濱本会長	今のご意見は、2の（3）審議会の意見についてのアの（ア）「地域住民等に対し、丁寧な説明を実施し、しっかりとした情報共有と共通理解を図り、地域・保護者・教員が互いに力を高め合える信頼関係の構築に努めていただきたい。」、まさしくここだと思います。具体的な進め方ではそういう配慮事項も含めて進めてほしいことを審議会の意見として示しています。
H委員	この答申書の内容は、分かりやすくまとまっているというのが第一印象です。これまでの9回にわたる話し合いが網羅されているのだろうと思いました。 私は、「小学校3校、中学校3校」という市全体の学校の適正規模・適正配置を各地域に説明していく際、地域住民の方へ特に丁寧な説明が必要になってくると思っています。「小学校3校、中学校3校」の方向性に対して、中には納得されない方もいるのではないかと考えていて、丁寧な説明が非常に大切になってくると思っています。
濱本会長	「小学校3校、中学校3校」という20年後の軸となる方針は出させていただきましたが、先ほどから意見があるように、どうなるか分かりません。その時に対処できるように委員からの意見として配慮事項がある。そこを踏まえて、ぜひ、しっかりと進めていただきたいと思います。 今のH委員の意見は、2の（3）審議会の意見についてのアの（イ）「地域の特性に応じた持続可能な教育環境を整備するため、各地域の実情に即して、必要に応じた準備委員会の設置など、丁寧な合意形成に努めていただきたい。」になると思います。とても大切なことだと思います。
I委員	答申内容を確認しまして、私もどういう順序で書かれているというのは理解できたのでこの資料で問題ないかと思います。 私は保護者として、PTA活動などを通じて他の保護者の方と関わってきた中で、基本的に保護者の皆さんは、「自分の子がどうなるか」はすごく関心を持たれていて、「うちの子の時代はどうか」、「何年後か」というのはとて

	も気にされると思います。例えば、ある中学校の制服が変更になるとの話があったとき、当初は、手紙だけで話が進みそうだったのですが、手紙だけではなく段階的な対応が必要ということで、まずは何名かの保護者の方に対し、「制服がこのようになりますよ」と説明したり、学校側から「今度の制服はこういうメリットがある」という具体的な説明をして意見交換をするなど、保護者からの意見を学校側がしっかりと聞く対応をしました。丁寧に説明や話し合いをしてくと、保護者の方も「新しい制服にこういういいところがあるね」と制服が変わることにポジティブな姿勢を示してくれて納得されていました。このような取組はとても重要だと思います。今後の各地域での説明では、具体的なものやメリットなどをしっかりと伝えていくことによって、地域の方々に納得してもらえと思うので、そのような姿勢を大切にしてほしいです。
濱本会長	どうもありがとうございます。 とても重要な意見の１つだと思います。ぜひ、その部分を踏まえて教育委員会では取組を進めていただければと思います。
J委員	私はこの２０年後を見据えた計画に関われたということで、将来がとても楽しみにになりました。「ワクワク」する感じがとてもしています。こういう「ワクワク」感を地域の方にもお話しできたらいいと思っていますが、反対意見も出ると思いますので、丁寧な説明が必要だと思います。
濱本会長	どうもありがとうございます。 未来を考えるにあたって、「ワクワク」しないとよい考えが浮かびません。その一方で、デメリットをしっかりと考えながら前向きに解決していくことが、この１年間の委員の皆様のご意見だと思っています。その集大成が今ここにあるわけで、今のご意見はしっかりと説明責任を果たしながら、「ワクワク」させるように説明してほしいということです。
K委員	私は、先ほどお話にもあった菁莪中学校の意見交換会に参加しました。菁莪地区の全４，０００戸ぐらいにチラシを配布して、参加者５０名ほどでした。

	教育委員会主催で、7月に説明会を開催するとのことですが、説明会を1回だけではなく、複数回開催し、地域の方々を巻き込んで取組を進めていただきたいと思います。特に保護者の世代といった若い世代が少なかったので、今の保護者は親の世代ですけど、20年後となれば自分の孫の世代になると思うので、自分の孫が通うことを考えて、責任を持って未来を考えていけたらいいと思います。
濱本会長	ありがとうございます。 世代を超えて色々な方々の関わりが必要だと思います。そのときは「ワクワク」するような説明会が開催できるとよいと思います。
L 委員	この適正規模・適正配置の取組は、20年もかかる話なので、学校再編を含めた今後の市のあり方に直結してくる話です。これをどう生かしていくかといったところが重要になってくると思います。 学校を変えるということは、以前にもお話しましたが、道や人の流れが大きく変わる可能性があります。今の住宅密集地が、学校が変わることで大きく変わることも想像されるのではないかと思います。つまり、学校づくりを通じた市の考え方、市のまちづくりにつながってくると考えています。せっかくこの取組を実施するのであれば、市民だけではなく、県内とか全国の方々に市の考え方や取組を周知して、市の名前をPRしていくような対応を考えることも必要ではないかと思います。
濱本会長	ありがとうございます。 教育委員会だけではなく、市長部局も含めて市が一体となって取組を進めてほしいというご意見だと思います。市のブランド力が上がれば白岡市に住む方が増え、活気もさらに出てくると思います。 皆様、たくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。若干修正等はあると思いますが、本日、事務局から提示されましたこの答申書（案）はおおむねこれで進めてよろしいですか。

委員一同	(異議なし)
濱本会長	ありがとうございます。 そして、若干の内容の修正につきましては、会長の私と副会長の２人で修正をさせていただく形で一任させていただくことでよろしいですか。
委員一同	(異議なし)
濱本会長	皆様ありがとうございます。 会長と副会長で皆様のご意見をしっかりと反映できるように修正等をさせていただきます。最終的には、責任を持って答申を教育委員会に提出させていただきます。よろしくお願いいたします。 さて、昨年７月の発足以来、計９回にわたり議論を重ねてまいりました本審議会も、本日のこの会議をもちまして、すべての審議が終了となります。これまで、皆様にはたくさんの貴重なご意見をいただき、助けていただきました。本当にありがとうございました。 そこで、最後の締めくくりといたしまして、委員の皆様お一人ずつから、教育委員会そして白岡市にエールを送る一言をいただければと思います。
L委員	先ほどもお話しましたが、この取組は長いスパンでやっていくことになるので、難しさがありますが、同時に面白さもあると感じています。 審議会としては「このように配慮いただきたい」とのところまでとなりますが、その先の話となると、色々な部分がもっと具体的になり、多方面から様々な言葉をいただくことになると思います。大変なこともあるかもしれませんが、ぜひとも白岡市を良くする、学校に通う子どもたちや保護者を含めて市民の方々の環境を良くすることを考えていただきながら、取り組んでいただければ幸いです。よろしくお願いします。
K委員	以前発言したと思いますが、市内の各駅前に１校ずつ学校を設置するという案も「ワクワク」する話だと思います。基本的には、これまでの審議会で議論

J 委員	した内容を加味して進めていただければと思います。よろしくお願いします。 私は、このような会議に委員として参加するのが初めてで、最初は戸惑いがありました。ですが、途中から私がこの会議に参加している意味を考え、保護者の立場としてしっかりと意見を伝えるためと思い、色々と意見を述べさせていただきました。 この会議に参加することは、私の中では「ワクワク」することでした。今までとは少し違う環境に来ることが楽しみでもありました。 今後、教育委員会主催で魅力ある学校づくり説明会が開催されるとのことです、微力ながら、PTAの保護者の方々に対し、周知させていただきたいと思っています。これまでありがとうございました。
I 委員	これまで大変お世話になりました。自分なりに一生懸命に、白岡の将来の子どもたちのために考えてきたつもりです。もしかしたら自分の孫が学校に通う時代になって、自分が今住んでいる白岡が変わっていくのだと思うと、本当に「ワクワク」することだと思います。私は物事をポジティブに考える方なので、これからさらに良くなっていくことを皆さんと考えていると思って参加しており、この取組に携われて本当に良かったと思っています。 これからもいろいろな説明会などに関心を持って参加していければと思います。どうもありがとうございました。
H 委員	魅力ある学校づくりということで、現場の学校で働いている者としては、この審議会を通じて、ふるさと白岡を愛する子どもたちを育てていかなくتهはいけないということを感じることができました。 現場で子どもたちの成長を見ていると、先ほどから「ワクワク」という言葉がありますが、本当にそういう部分も感じる人が多いです。今後、白岡市のために微力ながら頑張っていきたいと思っています。これからは大変と思いますが、できることはやっていきたいと思っています。よろしくお願いします。

G委員	これまでありがとうございました。審議会の委員という立場で参加をさせていただいて、皆さんからたくさんご意見を伺うことができ、これからの白岡市がどうなるのかと楽しみに感じています。 学校は、地域の方があつての学校だということを、私は常に意識しています。そして、地域の方々にはいつも助けられています。今後、説明会などを実施していく中で、説明会に参加する方は、具体的な答えが欲しくて参加するのだと思います。その具体的な答えが「ワクワク」につながっていくのではないのでしょうか。これからの取組の中で、少しでも「ワクワク」が増えていくことを期待しています。 私も微力ですが、学校の情報だったり地域の熱だったりというのを、学校運営協議会の皆様と一緒に共有しながら、皆様の思いを1つでも2つでも叶えられるようにやっていきたいと思っています。引き続きどうぞ、よろしくお願いいたします。
E委員	これまでありがとうございました。私はこの会議に参加するにあたり、様々なお立場の委員の方々のご意見をいただきながら、委員として勉強をさせていただきました。 また、これから取組を進めていくにあたっては、様々な困難や課題、考えが出てくるとと思いますが、今回の審議会における議論は、白岡市内の小中学校がより良くなるための確かなスタートラインになったと私は考えています。引き続き目の前の子どもたち、教職員とともにより良い学校を築きたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。
D委員	自分も学校の関係者として、あるいは住民としての立場で色々と考えたときに何が言えるかと、審議会の資料を分析して考えを申し上げてきました。 白岡は小学校3校、中学校3校の6校で各地区においてスタートし、最近まで小中学校が10校あり、学校が新しくできるときは「ワクワク」していました。現在は9校になりました。今後、学校が減っていくということに、少し寂しさを感じています。 先ほどから「ワクワク」というお話が出ていますが、学校再編で新たに生ま

C委員	れ変わる学校ができるというのは、「ワクワク」しますし、子どもたちはどんな仲間、どんな新しい友達を作っていくのか、あるいは地域もどんなふうに変わっていくのかという「ワクワク」感もあると思います。 学校、家庭、地域、それから行政が一体となって新しい学校づくりを進めていただければと思います。 教育委員会はこれから大変だと思いますが、ぜひ頑張ってください。 教育委員会の皆様、市の皆様、それから委員の皆様、ありがとうございます。私は、広報しらおかを見て、この審議会の委員に申し込み、そして委員としてこのような経験をさせていただいたことに感謝を申し上げたいと思っています。 なぜ私がこの審議会に申し込んだかと言いますと、子どもたちが元気になるまちは素敵だと思いますし、これから子どもが減っていくのは分かっている状況で、少子化を見据えた取組を実施することは、市にとって大きな強みになるだろうと思い、自分の中では強い思いがあり、この事業だけは関わりたいと思いました。 反省としては、財政のことや学校の先生が大変という目線では意見は言えたと思うのですが、子どもたちにとっての目線が足りなかったと思います。子どもたちが「ワクワク」して学校に行けることが何よりだと思っています。その実現のためには、みんなで協力して、市の方々はもっと市民を頼っていいのではないかと思います。市だけで抱える、教育委員会だけで抱えるのではなく、市民を巻き込んでやっていただければと思いますし、自分の子ども、その子どもがまたここで子育てをしたいという、そういう思いが回っていけばよいと思いました。この事業に関われたことに感謝いたします。ありがとうございます。
A委員	本当にありがとうございました。白岡市の子どもたちのために、様々な立場の大人たちが関わり合い、話し合ってきたことを子どもたちに見てもらいたいと思いました。子どもたちはそのことに対して、幸せに感じてくれるのではないかと思います。子どもたちのために、たくさんの方々が話し合っていること

事務局	B委員からいただいたコメントです。 「今後の適正規模・適正配置の取組において、私は「教育内容の充実」、そして「現場の先生方の情熱」が大きな鍵になると考えています。 学校施設の整備を進めると同時に、先生方が誇りとやりがいを持てる教育環境の実現につながるよう、取組が進んでいくことを心から期待しております。 濱本会長をはじめ、委員の皆様には、これまでの長きにわたる審議において多角的な視点から、貴重なご意見をたくさんいただき、本当にありがとうございました。 皆様とともに、白岡の子どもたちの未来のために議論を尽くせたことは、私にとりましても大変貴重な時間となりました。心より感謝申し上げます。」 F委員からです。 「今後も、教育委員会と連携して、子どもたちのために未来を見据えて取り組んでいきたいと考えています。1年間ありがとうございました。心より感謝申し上げます。」 M委員からです。 「昨年の夏から会議に参加させていただき、大変勉強になりました。白岡市のより良い学校を作っていこうという姿勢に共感し、また委員の皆様も学校への熱い思いを持っていらして、白岡市の教育はこれからも絶対に大丈夫だとの確信を持ちました。 数年後、お子さんたちの歓声があふれる学校、他のまちから視察が絶えない学校ができることを、心から楽しみにしています。 私も白岡市に負けないよう、自校の学校づくりに励んでまいりたいと思います。 濱本会長様はじめ、委員の皆様、横松教育長様、及び事務局の皆様、そして市民の皆様、本当にお世話になりました。ありがとうございました。」
濱本会長	最後に安原副会長、よろしくお願いします。
安原副会長	今日ここにご出席されている委員の皆様と私は立場が全く違って、私は白岡市で働いたこともありませんし、白岡に住んだこともありません。距離的には

一番白岡から遠い、無関係という立場から、いい言葉で言うと、クールなところから皆様の意見を聞かせていただき、白岡の方は皆様本当に子どもたちのことを考えながら学校づくりを考えているなど正直な感想を持ちました。

最後に冷や水を浴びせてはいけないのですが、皆様「ワクワク」されているところで申し訳ないですけど、先ほどG委員から答申とはどういうものかという話がありました。いい例えか分かりませんが、総論です。

白岡の学校づくり、子どもたちの未来のためにどんな学校を作ろうかという総論を皆様と一緒に議論しながら作ってきた。問題はこれから各論に入っていく。大体議論の行く末というのはどこもそうですけど、各論に入ると賛否両論でワイワイしてある意味、一番「ワクワク」する時がこれから訪れていくのかなということです。その時は私たちというか、教育委員会も含めてそうですが、大事なことはやはりここで議論されたような願いや「ワクワク」した夢をポイントに、いろいろな意味で各論の議論の中に入っていくことなのだという気がします。

今やスマホ、SNSの時代ですから、どんな各論が飛び出してくるかは分かりません。でもここでお話しした総論がそのすべての基盤になるということを押さえておけば、いろいろ対応できる気がします。

大事なことは先ほどB委員がおっしゃっていたように、少し先の話をしている部分もありますが、実はもう明日から始まることではないかと思います。特に学校関係者の方たちは、この答申を読めば小中一貫教育や学校をどう改善していくかというのは今から取り組まないと、新しい学校ができた、あるいは学校再編で適正規模な学校ができたときに始めるのでは遅いです。今から準備するといっても、皆様の願いがここで議論されていたので、ぜひこの答申を、特に学校に関わる方たち、保護者の方にこれを周知していくか議論してもらいたいです。本当にいい学校を作ることはということなのか。まだ学校に入っていないお子さんたちがおそらく主人公になりますが、今いるお子さんたちのご家庭もその道筋を作っていくということで議論を始めていただきたいというのが私の願いです。

本来、話し合っているいろいろな考え方をぶつけ合って、妥協しながらいい道を選んでいこう、というのが民主主義ですが、どうも日本の方たちの気質は賛成

濱本会長	が9割、できれば10割でないと、前へ進めないというところもあるのですが、それでは実はほとんど進まないの、その辺のことがこれからの場面で必要な気がします。特に行政の方は、これからが正念場だという気がします。 最後、適正規模・適正配置という、先ほどD委員も学校がなくなるというのが寂しいとおっしゃいましたが、発想をちょっと変えていただいて学校がなくなるというよりは新しい未来に向けて再生していくのだと思います。学校を作るのだと前向きに進んでいかないと、なかなか良いものではないのではないかと思います。 実は私の研究の中でも日本全国に深刻な少子化の影響、過疎化の影響で1市町村に1学校しかできないところがありますが、逆に言うと、成功しているところは「そこがふるさとだ」という発想でやっているところが多いです。 だから「篠津中だ」「白岡東小だ」ではなく、白岡市のふるさとの学校だという学校を作れば、それですごくいいのではないかと思います。私も大いに勉強させていただきありがとうございました。これからが大変だと思いますけど、頑張っていたきたいと思います。 本当にありがとうございました。 いろいろな審議会に出ていますけれども、これだけ委員の皆様が率直な意見を出される審議会はほとんどないと思います。ほかの委員会では黙って時間が過ぎて形ができてしまうことが多いのですが、この審議会は違いました。毎回皆様が自分の思いを通していいものを作ろうとされました。だから白岡市は永遠に不滅です。 我々「教育は人なり」と言って、どういう人が教えるか、どういう人が子どもを守っていくかです。だから委員の皆様の熱意は必ず子どもたちに伝わります。それは自分の子ではないかもしれませんがそれがとても大事なことで、せっかくこの9回をやってきた、それを無理しないように、横の連絡も生かして教育委員会とともに作り上げてほしいというのが最後の願いです。 私は会長としていつも時間オーバーでご迷惑かけたことも反省しています。でもそれは皆様の熱意だと思いますので、その熱意をしっかりと大事にしてほしいと思います。
-------------	---

	迷ったら子どものことを第一に考える。 それがぶれてしまうと大人も考えない。そう思っています。ぜひこの後も教育委員会は大変だと思いますけど、頑張ってください。委員の皆様全員応援してくれます。 それでは、以上をもちまして、本日のそして本審議会の全ての議題を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。 それでは進行を事務局にお返しします。
事務局	濱本会長はじめ、委員の皆様ありがとうございました。 それでは最後に次第の４．その他に移ります。事務局から説明させていただきます。
事務局	４ その他 ～事務局から、「次回審議会の日時について」、「報酬及び費用弁償の支払いについて」を説明～
教育長	最後に横松教育長から一言、ご挨拶を申し上げます。 委員の皆様、本日は答申書をおまとめくださいましてありがとうございます。 最後まで熱心にご審議をくださいまして誠にありがとうございます。 昨年７月の発足以来１年間にわたりまして、白岡市の子どもたちの未来のために多大なご尽力と温かいご意見をくださいまして、教育委員会を代表いたしましてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。皆様からいただいた貴重なご意見の数々は、本市の教育環境を整えるために大変な貴重な財産だと思っております。 教育委員会といたしましては、答申を最大限尊重し、子どもたちにとって最適な教育環境を具現化すべく、今後の具体的な学校のあり方について検討を重ねてまいりたいと考えております。 大事なことを言い忘れるといけないので、現時点で考えられる最善の案を市

事務局	の教育委員会として今年度中にできるだけ具体的に整備計画案をお示したいと考えております。私も、夢を語っていきたいと考えております。 結びに、委員の皆様のこれまでの温かいご支援に重ねてお礼申し上げますとともに、皆様のご健勝と今後のご活躍を祈念申し上げ、また今後の市の教育委員会、教育に多大のご支援をいただきますようお願い申し上げます、お礼のご挨拶といたします。 本当にありがとうございました。 5 閉会 これをもちまして、第9回白岡市立学校適正規模適正配置審議会を閉会させていただきます。
-----	---